

# 造血幹細胞提供支援機関の役割

(2017.3.2~4 第39回日本造血細胞移植学会総会)

日本赤十字社は平成25年に「移植に用いる造血幹細胞の適切な提供の推進に関する法律」に基づき造血幹細胞提供支援機関に指定され、平成26年から本格的に業務を開始し、これまでの血液事業や骨髄データセンター業務・臍帯血バンク業務で培った経験を最大限に生かしてその業務にあたっています。

## ① 約98%の骨髄ドナー登録者は献血会場で受付

全国の献血ルーム（129か所）、献血バスで骨髄ドナー登録が可能。献血ルームでは説明用iPadを常設し、日本骨髄バンクの説明員が不在の時でも同等の説明が受けられる態勢を整えています。

## ② 臍帯血採取技術研修会、調製保存技術研修会を開催 →有核細胞数が多い臍帯血の公開数が増加

産科スタッフを対象とした採取技術研修会では、採取技術の向上及び採取された臍帯血がどのように活用されているのか等を議題として取り上げ、スタッフのモチベーション向上に役立っています。

## ③ HLA検査は全登録者分を日赤が実施

受け付けた骨髄ドナー登録者、年間約3万人強のHLA検査は全て日本赤十字社が行っています。

## ④ HLA適合検索と臍帯血の申込用のWEBサイトを運営

データを管理してドナー検索に用い、患者さんに適合するドナーや臍帯血が登録されているか検索するサイトを運営しています。

## ⑤ ドナー家族・患者家族の説明用に冊子を提供

支援機関として制作した造血幹細胞移植に関する冊子を各医療機関へ配付。多くの医療機関でドナー家族・患者家族に造血幹細胞移植に関する説明用としてご活用いただいています。

## ⑥ これからの移植のために骨髄ドナーと患者の検体を保存

各医療機関で採取していただいた検体を保管し、必要に応じて研究機関に提供する仕事をしています。

## ⑦ 臍帯血移植で発生した有害事象をまとめて報告

臍帯血移植を実施した後に発生した有害事象（副作用等）を取りまとめて各医療機関へ配付しています。

## ～ これからの取り組み ～

## ⑧ 住所不明ドナーを減らしたい！ →対象ドナーへメール発信、献血者データとの連携を計画中

登録後に住所不明となりコーディネート不能となったドナー登録者が約6万人います。この方々をもう一度コーディネート対象とするのは（公財）日本骨髄バンクの役割ですが、支援機関としては「登録者の住所の適正管理の観点から」対象者へメールを発信して現住所に修正していただけるよう働きかけるとともに、献血者データと連携して住所不明になる人を最小限にするよう計画を立てています。

## ⑨ より良いドナー検索で移植成績を向上させたい！ →適宜、HLA検索ロジックを最適化

最新の造血幹細胞移植に関する研究で得られた知見をもとに、検索条件を変更して、患者さんにより適合するドナーや臍帯血を提案できる検索システムを構築します。

## ⑩ コーディネート期間短縮にシステムで貢献したい！ →郵送連絡を減らすことを計画中

造血幹細胞事業に関するシステムを統合し「造血幹細胞移植支援システム」として、平成27年度から事業の効率化を検討しています。現在の郵送やFAX中心の骨髄ドナーコーディネートシステムをシステム化し、郵送等にかかっていた期間を短縮できるよう、関係事業者間で協議しながら構築を進めています。